

件名	第15回（平成30年度第1回）セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会	
日時	平成30年4月18日（水）18時30分～19時30分	
場所	市役所305会議室	
出席者	委員	（委員長）足達 寿 浅倉 敏明 山下 寿 橋本 俊之 内藤 美智子
	事務局	今村課長、江原主幹、松本主査、末安（安全安心推進課） 吉田次長、西村補佐、小野（総務医薬課）、堤課長（長寿支援課）
欠席者（代理）	井上 謙介委員（代理：境次長）	
次第	1. 開会 2. 報告事項 （1）平成30年度の主なスケジュールについて （2）平成29年度実施のアンケート調査結果について ①市民意識調査 ②セーフコミュニティに関する実態調査 3. 協議事項 （1）事前指導での指摘事項である溺死溺水に関する対応（案）について （2）再認証のための申請書及びプレゼン資料（案）について 4. その他 5. 閉会	
〈議事概要〉		
	1. 開会 ・事務局から開会宣言 ・傍聴確認 （傍聴希望者なし） 2. 報告事項 （1）平成30年度の主なスケジュールについて ・事務局が資料に沿って報告 （質疑応答） ・なし （2）平成29年度実施のアンケート調査結果について ・事務局が資料に沿って報告 （質疑応答） ・なし	

3. 協議事項

(1) 事前指導での指摘事項である溺死溺水に関する対応（案）について

- ・事務局が資料に沿って説明

(質疑応答)

委員長

- ・久留米大学病院の救急救命センターに溺死の原因を調べてもらったが、明らかな原因が書かれているものが少ないという状況であった。原因不明の溺死がほとんどだった。

委員①

- ・結果として溺死だが、原因が明らかになる事例はほとんどないと思われる。家族もそこまで望まれない。

委員②

- ・溺死については、救急隊が到着したときにそのまま沈んでいる場合もあれば、引き上げている場合もあり、生活環境も違う中で、現場の状況から原因の特定はかなり難しいと思われる。
報告にあった久留米市と全国を比較した場合に、久留米市の数値が高いが、平成2年から平成5年のデータで、福岡県自体が溺死の発生が多い都道府県で全国1位というものもある。久留米市の発生が多いというより福岡県全体が多いと考えられることもできると思われる。

事務局

- ・人口動態統計からみた都道府県を比較した数値では、2016年で全国ワースト1位は富山県で、10万人あたりの溺死者の数で11.6人、福岡県は4位で8.3人になっています。また、平成12年から17年は、福岡県はワースト1位で、特に男性が多いようです。

委員長

- ・福岡県は多いが、その中でも久留米市が多いということが、この都市規模の割にこれだけの医療機関が揃っているなかで、なんとなく分からないところはある。

事務局

- ・救急搬送のスピードも全国1位であり、その中で数値を出していただいている現状では、救急隊が到着したときには既に死亡していることが多いのではと考えています。どのようなデータを集めれば対策につながっていくのかもご助言をいただければありがたいと思います。事務局で考えているのは、単身者かどうかやお風呂の形状がどうなっているか、高齢者の意識などです。

委員長

- ・いずれにせよ今回の本認証では、対策をはじめましたという形になると思うが、その先の再認証では原因をはっきりさせておかないといけないのでは。

事務局

- ・調べて分かるところははっきりさせていきたいと思いますが、現状としてはこれ以上のデータがないので新たに調査をしないと難しいと思います。

委員③

- ・福岡県が多いというのは、国立保健医療科学院でも言われていた。建物の構造の問題や地域の特性の問題で、冬でも家全体を暖めないため、寒い浴室に行って倒

	<p>れられるのではないか。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも事前指導のときに言われた、川での溺死が多いというのではないという事は明らかになった。また、市民のいわゆるヒートショックに対する意識が低いということは言えるのかもしれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その部分については、アンケート調査などにより久留米市民の高齢者の意識はどのようなかなど、調べることはできると思います。
委員④	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、久留米市民のヒートショックへの認識が弱いのではないかと思う。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の場合、溺死に限らず入浴中のケガが多い。入浴は、高齢者が行う動作の中では高度なものであり、介助される方も多いので家族の理解を深めていくことも大切だと思う。そもそも入浴を高齢者が1人で行うのが危ないと考えべきでそのあたりの理解が低いのもかもしれない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・私もこのデータを見て初めて知ったが、こんなに入浴中の溺死が多いとは知らなかった。なんとか対策を講じていかないといけない。
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・消防の方から言うと、ここ数年夏場の熱中症に関する注意喚起を行ってきた。ヒートショックのこともやるにはやっていたが、今後の消防本部の方針として高齢者への出前講座や要援護者への訪問などでリスクをお伝えしていくことに力を入れていかないといけないと考えている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市では積極的な広報や対策に関する市民向けの取り組みはしているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に関しては、保健所健康推進課で啓発を行っています。溺死に関しては、ヒートショックへの対策等は行っておりません。今出来る対策の中では、熱中症対策とあわせてやっというと考えています。現時点で分かっている数字からは、これという対策をとるための原因はわかりませんし、市民への啓発以上の対策は先進地でも見つかっておりませんので、まずは啓発をやりながら、今後の委員会でのこのような統計がとれると原因に辿り着けるのではというご意見を是非お願いしたいと思います。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・原因が分かってくるかは分からないと思う。世間一般で熱中症はかなり深く理解されているが、入浴中の事故でこれだけの人が亡くなっているというのは知られていない。救急車で搬送される患者で、溺水と熱中症では致死率が全然違うので、ぜひ啓発を行って欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・対策をとるにしても熱中症の場合は、適度に水分をとりましょうなど手軽に出来る対策がありますが、ヒートショックを防止するには、たとえば、更衣室を暖めましょうと啓発をしたところで、経済的な面も含めて対策がとれるのか、それを

<p>委員④</p>	<p>啓発して効果が期待できるのかなど、そのあたりも問題として残ってくると思いますので、できることの啓発からやっていきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この福岡県のパンフレットはよく出来ていると思う。こういうものを久留米市でも作ってみては。この転倒予防パンフレットは、広報くろめに入れて配付などしているのか。
<p>長寿支援課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙への折込はやっていない。高齢者安全対策委員会のメンバーを通して老人クラブやコミュニティセンター、地域包括支援センターなどに置かせていただいている。
	<p>(2) 再認証のための申請書及びプレゼン資料(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って報告
<p>委員長</p>	<p>(質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請書の締切りは、4月末ということよろしいか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在想定しているのは、5月までには内容を固めて英訳にだし、6月中に提出ということになると思います。
<p>事務局</p>	<p>4. その他</p> <p>(連絡事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本審査の日程と時間については、なるべく委員に皆さまに出席いただけるように調整したいと考えているのでぜひともご出席いただきたいと思います。今のところは7月の終わりから花火大会の前までに行いと考えています。
	<p>5. 閉会</p>